

新たな歴史館の創造をめざして ～ 長野県立歴史館の使命と目標 ～
平成28年(2016年)度評価表

評価の区分
A 目標を上回る成果をあげた
B ほぼ目標は達成した
C 目標には及ばなかった
D 目標には遠く及ばなかった

使命	基本目標	基本目標に対する取組	主な事業及び目標値	達成値	自己評価	利用者評価 (アンケートで寄せられた意見)	協議会評価	備考				
歴史館は、長野県の歴史に関する調査研究に基礎をおきながら、埋蔵文化財(考古資料)、歴史的価値ある文書等の歴史資料の収集・整理・保存を通じて、県民の歴史遺産を子孫に引き継ぐ活動を市町村と連携して行うとともに、県民が歴史をふりかえり、未来を展望し、また学び、憩い、交流する場としての役割を果たします。	長野県民の歴史遺産を子孫に継承するための取組をします	埋蔵文化財、文献史料・歴史資料等を収集し、調査研究を行います	○ 館蔵資料の調査 a 考古資料(縄文土器)の調査 ・ 秋季企画展「縄文土器展Ⅱ」の開催準備をする。	・ 装飾がさらに進化をとげる約5,300～5,100年前にスポットをあて、地域ごとの特徴が感じられる展示となるよう準備を進めた。 ※H29秋季企画展「進化する縄文土器」(H29.9.16～11.26開催中)	A	—	A	長野県の考古資料が見られてよかった。巡回展示により、東信・中信、南信の方々が、歴史館に行かなくても、県内の資料をみることでよかった。				
			b 巡回展 遺跡発掘2017、2018の資料調査 ・ 平成29年度の展示を目指して調査。	・ 市町村教育委員会、埋蔵文化財センターと共同して調査を進めるとともに、テーマ展示として「黒曜石」の調査研究を行なった。 H30年度開催予定の企画展「黒曜石」に関する下準備となる調査を行うことができ、今年度はそのプレ展示となった。 ※「遺跡発掘2017」を開催、巡回中 歴史館 3月18日～6月25日 南信会場 7月29日～8月20日 中信会場 8月26日～9月24日 東信会場 9月30日～11月26日	A							
			○ 文献史料の収集・整理・保存 ・ 行政文書、県報、行政資料 新規収集資料の目録照合・確認の完了 県報、行政資料の公開 未整理行政文書の整理を進める。 公開・非公開判定、金属除去など装束整理。 所蔵資料の再確認(目録照合・修正)	(年報:P77) ・ 行政文書、県報、行政資料 平成28年度収集資料の目録照合、確認完了 行政簿冊441冊、県報101件、行政資料147点 県報の製本、公開完了 行政文書の金属除去等装束整理 2,630点 所蔵資料の再確認 明治初年～昭和33,981冊、行政資料1,941冊 所蔵県報の照合 129冊 県報129冊	B				—	B		
			・ 古文書 新規史料の収集 未整理資料の整理を進める 年度当初未整理資料 数万点	・ 古文書 収集 3,155点 整理 23件15,059点 公開 14件 9,555点 (室賀家資料ほか)	B							
			○ 考古資料の保存処理 ・ 収納木製品の保存処理(1,000ポイント)(PEG槽へ投入、濃度アップ、取り上げそれぞれ1回の作業を1ポイント扱いとして換算)	(年報:P76) ・ 木製品 1,516点(2,369ポイント)の保存処理終了	A							
			○ 館設定研究テーマの調査・研究 ・ 長野県測量設計業協会との地図・絵図の研究会で共同研究を進め、成果を報告書にまとめる。	・ 長野県絵図・地図研究会 7回開催 文化庁芸術振興費助成を受け、明治初期の町村地図約1,000点を素材に測量法や描写法等研究。 報告書「長野県明治初期の村絵図・地図」刊行およびWEB公開、公開講座「明治の村地図を楽しむ」開催等。	A							
			・ 市町村教育委員会との城下町研究会で研究会を実施し、その成果を冬季展で公開する。	・ 長野県近世城郭・城下町研究会 2回開催 8月 松本城下町跡地見学と企画展案検討 3月 企画展総括と今後の活動について 冬季展「信濃国の城と城下町」開催。 (H28.12月～H29.2月)	A							
			・ 市町村教育委員会と黒曜石研究会を実施する。	・ 県教委文化財・生涯学習課による「黒曜石原産地保有市町村等連絡協議会」において、共同研究の提案と意見交換を行った。	A							
			・ 秋季企画展で伝統芸能の保存会の公演等のイベントを実施する。	・ 秋季企画展「木曾の宝」にて「須原ばねそ」など木曾の伝統芸能に触れるイベント2回(2日)実施 (年報:P32)	A						・ 子ども歌舞伎もすばらしく、こういう経験が文化を継承していくことになると感じます。機会をつくって観に行きたいです。 ・ 感動しました。私も南木曾町田立(出身)なので、思い出しました。 ・ 大変楽しく、懐かしく拝見させていただきました。	A
			史資料の保護・活用に取り組み、保護思想を啓発します	○ 史資料の保存等に関する市町村への協力・支援 ・ 依頼事項の90%以上	・ 依頼・実施件数 22件(実施率100%)						A	—
○ 史資料保存活用講習会の開催 ・ 参加者60人(20人×3日)	(年報:P55) ・ 3回開催 参加者117人	A	・ 文化財レスキューの実体験に基づいた現実と理想的見解とのジレンマなど、問題意識を共有していくことが継ぎにつながる感じた。 ・ 文化財を扱う実技を学ぶ機会としてありがたい。実践的な内容でとてもよかった。	A								
○ 考古資料保存処理講習会の開催 (県内市町村教育委員会から必ず1人の参加者が理想である。毎年テーマを変えた研修を行っているが、基本的なことは共通していることや、研修内容の都合から毎年40人程度(1回20人×2回開催)で実施したい。) ・ 参加者20人(20人×1日)	(年報:P55) ・ 1回開催 参加者18人 満足度100%	B	・ なかなか経験できない保存処理講習会であった。定期的に開催してもらいたい。 ・ 実際自分たちだけで保存処理ができるか不安であるが、何をしたらよいのか、なにをしてはいけないのかは理解できた。	C								
未来を映す歴史知識の泉としての役割を果たします	長野県の歴史を明らかにし、その成果を普及します	○ 常設展 ・ 観覧者数 前年並み(H27 38,625人) ・ 満足度 80%	(年報:P17) ・ 観覧者数 39,850人(+1,225人 103.2%) 満足度91.5%(H27 86.4%)	A	—	A	・ 説明員の方が丁寧に説明してもらい良かったです。 ・ 案内が必要な。 ・ 展示品がやや少ないと思います ・ カプトの試着がほしい ・ 展示室の照明がやや暗い。					
		○ 企画展 ・ 観覧者数 前年並み(H27 31,886人) ・ 満足度 80%	(年報:P29) ・ 観覧者数 32,199人(+313人 100.1%) 満足度93.1%(H27 88.9%)	A			—	A				
		○ 個別研究 ・ 学芸部職員 1人1研究	・ 2.5件/1人 [延件数42件/職員17人(全員実施)] (内訳 ブックレット31 研究紀要7 外部4)	A								
		○ 共同研究 ・ 長野県測量設計業協会との地図・絵図の研究会で共同研究を進め、成果を報告書にまとめる。(再掲)	・ 長野県絵図・地図研究会(再掲)	A								
		・ 市町村教育委員会との城下町研究会で研究会を実施し、その成果を冬季展で公開する。(再掲)	・ 長野県近世城郭・城下町研究会(再掲)	A								
・ 秋季企画展でまちづくり団体等との連携によるイベントを開催する。(再掲)	・ 秋季企画展「木曾の宝」にて「須原ばねそ」など木曾の伝統芸能に触れるイベントを実施(再掲)	A	・ 木曾にいてもなかなか見られない品を一堂に見ることができて良かったと思います。 ・ 地域ごとの文化財展示はよくありそうであまりないと思います。今後も続けていただくとありがたいです。 ・ 木曾はすごいところだと思った。 ・ 展示がシンプルで見やすくよかった。 ・ 近世城郭・城下町について、ほぼ発掘資料だけで展示されたことは画期的。 ・ 各城の説明が簡潔で読みやすい。 ・ 自分が住んでいる近くの城もあり面白かった。	A								

基本目標	基本目標に対する取組	主な事業及び目標値	達成値	自己評価	利用者評価 (アンケートで寄せられた意見)	協議会評価	備考	
県民の生涯学習を支援します	○ 古文書講座 (25回) ・ 受講者 900人(36人×25回) ・ 満足度 80%		(年報:P50) ・ 25回開催 受講者 延べ766人(184人) 講座出席率 82.4% 満足度 88.6%	A	・古文書に興味を持って、もっと勉強したくなった。 ・テキスト・講座内容すべてにわたり満足した。 ・古文書の背景にあるものを読み解く面白さを学んだ。	A		
			○ 考古学講座(4回)、探訪会(1回) ・ 受講者 240人(講座 50人×4回、探訪会 40人) ・ 満足度 80%	(P50) ・ 5回開催 受講者 261人(うち1回探訪会33人) 満足度 90%	B	・長野県の歴史が理解できた。 ・考古学講座と企画展示、常設展示が関連していて良かった。	A	
			○ やさしい信濃の歴史講座 (7回) ・ 受講者 700人(100人×7回) ・ 満足度 80%	(年報:P49) ・ 7回開催 受講者1,015人 満足度91%	A	・山を通じて信濃の歴史が理解できた。 ・持ち時間が少ない。一人2時間は欲しいと思う。もう少し深く掘り下げたものを聞きたい。 ・レジュメが配られると助かります。 ・講座を続け発展させてほしい。	A	
				(年報:P52) ・ 歴史館ふるさと講座1「テーマ:真田氏」 5回開催 受講者611人 満足度 92% ・ 歴史館ふるさと講座2「テーマ:戦争と平和」 4回開催 受講者445人 満足度 92%	—		—	
			○ 企画展・季節展等講演会 5回 (速報、春・夏・秋・冬企画展等) ・ 受講者 500人(100人×5回) ・ 満足度 80%	(年報:P46) ・ 5回開催 受講者 869人 満足度 97%	A	・講師に上からスポットライトが当たると良い。 ・照明はメモができるくらい程度でお願いします。 ・資料を2倍の大きさにしていただけました。	A	
				※企画展等別 ・ 巡回展「長野県の遺跡発掘2016」126人 演題 「土偶ってなんだろ」 講師 三上 徹也氏(県考古学会員) 満足度95% ・ 夏季企画展「夢をのせた信州の鉄道」184人 演題 「信州の山と鉄道」 講師 小西純一氏(信州大学名誉教授) 満足度95% ・ 巡回展「長野県の遺跡発掘2016(松本)」259人 演題 「北村遺跡人はどのような人々だったか」 講師 茂原信生氏(京都大学名誉教授) (アンケートなし) ・ 秋季企画展「木曾の宝」86人 演題 「木曾の宝」 講師 笹本正治(当館館長) 満足度98% ・ 冬季展「信濃国の城と城下町」214人 演題 「戦国期における信濃国の城と城下町」 講師 笹本正治(当館館長) 満足度95%	—	(巡回展) ・ 視覚的(パワーポイント)な資料がよかった。 ・ 縄文のビーナスや仮面土偶を見に行こうと思っていたので参考になった。 (夏季企画展) ・ 山国信州へ鉄道を敷くために、勾配トンネル及びスイッチバック等、当時苦心されて開通し、今日に至っていることがよく理解できました。 (秋季企画展) ・ 改めて木曾のすばらしさを知る事が出来ました。 ・ 木曾へ行ってみたいと思った。 ・ 木曾生まれの人間なので、なつかしかった。知らないこともあったので、知ることができてよかった。 (冬季展) ・ 城の成立がよくわかった。 ・ 念願だった信濃の話が聞けた。 ・ 熱く語る言葉が心に重くすばらしかった。このような講演会を今後してほしい。	—	
			○ 大人の遠足(八十二財団との共催)	(年報:P53) ・ 参加者 118人 講座2回 73人 現地見学 45人	A	—	A	
			○ ブックレット刊行 ・ 年1冊の刊行	(年報:P70) ・ ブックレット23号「川」を刊行	A	—	A	
			○ 関係機関との連携 ・ 飯田市美術館(飯田市)、豊科郷土博物館(安曇野市)との連携した講座を開催する。	(年報:P54) ・ 飯田市美術館 2回 44人 ・ 安曇野市豊科郷土博物館 1回 26人	A	—	A	
				(年報:P53~55) ・ 長野県カルチャーセンター連携講座 6回 受講者123人 ・ 考古学セミナー(県考古学会共催) 1回 受講者73人 ・ 近世史センター(信濃史学会、信州近世史セミナー共催) 1回 受講者51人	—	—	—	
	・ 県博物館協議会HP開設し、連携強化を図る。	・ HP開設。加盟館が最新の展示・イベント情報をHP上で手軽に情報発信できる場を設けることができた。HPを持っていない小規模館でも本HPを利用し情報発信が可能になった。	A	—	A			
学校教育を支援します	○ 効果的な展示利用方法の開発 ・ 常設展示用学習シート(小学校)を活用したプログラムの提供		・ アンケート回答校(206校)中111校でワークシートが利用された。(利用率 54%)	A	・学習シートを事前に目を通すことによって、見学時により深い理解や興味関心がもてた。	A		
			○ 学校見学時の展示解説 ・ 希望校100%実施	(年報:P38) ・ 学校見学数276校 (展示解説252校、希望校100%実施)	A	・子供たちの質問に随時答えていただく展示解説がよかった。 ・レプリカの貸し出しをしていただけるとありがたい。	A	
			○ 学校見学時のバックヤード探検 ・ 希望校の90%以上の受入	(年報:P38) ・ 91%受け入れ(169校)	A	・実物を見たり、さわったりできて子どもたちは大いに満足 ・本物に勝る教材はないと感じた。 ・熱心で迫力のある解説に子どもたちもとても感動	A	
			○ 博物館実習・職場体験学習の受入 ・ 希望者の90%以上の受入	(年報:P60) ・ 100%受け入れ 博物館実習6人、職場体験26人、インターシップ2人	A	—	A	
			○ 教員研修への協力、実施 ・ 希望者の100%の受入	(年報:P60) ・ 100%受け入れ 免許更新講習(信州大学) 142人 教材研修(県総合教育センター) 14人	A	・歴史館の展示を利用しながらの教材開発、実物に触れながら新しい発見があり、子供の学習の疑似体験ともなった。	A	
			○ 出前授業(講座)の実施	(年報:P59) ・ 27回開催 参加者数1,480人 小学校 10回開催(3校) 290人 中学校 1回開催(1校) 35人 高校 11回開催(5校) 565人 短大 5回開催(1校) 590人	A	—	A	
			○ 未利用校の利用促進 ・ 中南信地区の校長会、教頭研修会での歴史館について情報提供を行い、利用促進を図る。	企画展「木曾の宝」実施に合わせ、未来館校の多い木曾地域の町村教育委員会・校長会・教頭会等で情報提供を行った。三岳小等4校が来館し、伝統芸能の発表も行った。高校への広報に努め、長野高校・上田高校・松本県ヶ丘高校・豊科高校・市立長野高校等で授業を担当した。屋代南高校との連携を強め、出前授業のほか、生徒が作成した武具等を展示し、好評であった。	B	—	A(B)	
			○ 史資料の閲覧 ・ 地図、絵図の調査を実施し、その成果を公開する。(再掲)	・ 明治初期の町村地図約1000点を素材に測量法や描画法など研究。地図画像のWEB公開、報告書の刊行をおこなった。(再掲)	A	—	A	
歴史情報を提供します	○ ホームページの充実 ・ アクセス数(年間 65,000件) ・ ホームページの内容の充実		(年報:P71) ・ ホームページアクセス数 年間70,600件 ・ ブログを毎週発信 37回	A	—	A		
			○ 歴史館情報のマスコミへの周知 ・ 信濃毎日新聞社「しなの歴史再見」、読売新聞社「名作招待席」へコラムを掲載する。	(年報:P83) ・ コラムしなの歴史再見(信毎) 48回 ・ コラム名作招待席(読売) H27年度で企画終了	A	—	A	
			・ 企画展、講座等の情報発信を行う。	(年報:P80) ・ 新聞、情報誌等に掲載(127回)	A	—	A	

基本目標	基本目標に対する取組	主な事業及び目標値	達成値	自己評価	利用者評価 (アンケートで寄せられた意見)	協議会評価	備考
楽しむ場・憩いの場・交流の場としての役割を果たします	参加して楽しめる場、憩える場とします	○ 体験イベントの開催 ・ 出前イベント「縄文人になろう」を実施する。 (各会場で100人以上の体験を目標)	・ 県庁、長野県埋文センター、伊那文化会館で実施 (500人以上が体験)	A	—	A	
		○ 親子映画会の開催 ・ 参加者の増加 (年間 1,000人)	(年報:P57) ・ 4回 参加者数 1,460人	A	・ 夏休みも開催してほしい。	A	
	県民が参画した館の運営を進めます	○ 古文書愛好会の育成と活動支援 ・ 古文書講座受講者の半数の入会 ・ 参加者数 500人(延べ)	(年報:P61) ・ 入会率 47.5%(入会者 75名/受講者 158名) ・ 参加者数 延べ664人	A	・ 整理の仕方の基礎を教えてもらってよかった。 ・ 生の文書に触れて学習できるのは県内でも歴史館だけです。 ・ 発表時間が少なかった、増やすように工夫してほしい。	A	
		○ 運営サポートボランティアの育成 ・ 展示解説・体験ボランティアの募集・養成を行い、学校見学時の解説、イベント運営への活用を進める。 ・ 常設展解説等館運営ボランティアの積極的な活用を図る。	(年報:P62) ・ 募集 歴史館HP、チラシ(千曲市回覧、当館設置) ・ 新規登録者4人 ・ ボランティア研修会 9回開催 受講者延べ49名 ・ 解説34回(学校見学5回、団体見学29回) ・ 体験(イベント)6回 ・ 常設展の日曜ボランティア解説(毎日曜日実施) 解説者延数210人 利用者数1,063人	A B	— 解説ボランティアの声 ・ 観覧者の興味関心を伺いながら解説する大事さを知った。 ・ 一緒にクイズを楽しみながら説明させてもらった。	A B	
	○ 利用者アンケートの充実 ・ 来館者アンケート回収率を高め、評価の充実を図る。	・ 回答の多くを選択式にして、短時間で記入できる様式にした。H28 回答率1.00% (回答率 入館者のH26 1.16% → H27 0.97%) ・ 県職員向けアンケートの実施(H29.3.3~17) 回答総数 205名	A —	— ・ 交通の便が悪いのが難点です。 ・ 常設展示(近現代コーナー)を充実してほしい。楽しめる内容にして欲しい。刺激が欲しい。 ・ もっと歴史に親しみやすいアプローチが必要。 ・ 子どもたちが歴史に興味を持てるような、簡単に想像力をかきたてられる企画を期待します。 ・ 信州学の拠点としていけばよいのでは。 ・ 巡回展の回数を増やしてほしい。 ・ 今後も多彩な企画をお願いしたい。 ・ スマホを利用した情報表示システムがあるとよい。 ・ 外国人に長野の歴史をしっかりと知ってもらうことも大切な役割では。 ・ 情報発信に力を入れてください。 ・ ボランティア解説はいいなと感じました。 ・ 観光資源としての活用も検討すべき。	A —		
総合評価	<コメント>			<評価>			